

ITEA ダニアレルゲン (Der f 1) 不活化効果 簡易評価キット

アプリケーション

ITEA ダニアレルゲン (Der f 1) 不活化効果 簡易評価キットと ELISA の結果比較 — 不織布におけるダニアレルゲン不活化効果検討

1. 概要

アレルゲン不活化剤が加工されている不織布の効果を ITEA ダニアレルゲン (Der f 1) 不活化効果 簡易評価キット (以下、簡易評価キット) にて評価し、その結果を ITEA ダニアレルゲン (Der f 1) ELISA キット (以下、ELISA キット) の測定結果と比較した。

2. 検体

検 体 アレルゲン不活化剤 加工不織布
対 照 アレルゲン不活化剤 未加工不織布
サイズ 4 (cm) × 4 (cm)

3. 試験手順

- ① 不織布を折りたたみ、あらかじめ簡易評価キットの (A) 抽出物溶解液 で溶解しておいた (C) ダニ (Der f 1) 抽出物 (以下、ダニ溶液) の瓶へ添加。
- ② ①の各瓶を 10 回ずつ転倒混和して、室温にて 1 時間静置。
- ③ ②の静置終了後、取扱説明書にしたがいマイクロピペットにてダニ溶液を (E) 展開液と混合し、簡易評価キットの ITEA ダニアレルゲン (Der 1) イムノクロマトテスト による判定、および ELISA キットによるサンドウィッチ ELISA を実施した。

4. 評価方法

① イムノクロマト法

使用製品：#20001 ITEA ダニアレルゲン (Der 1) イムノクロマトテスト

評価方法：1 時間静置後の検体と対照のダニ溶液のテストラインの濃さを画像解析ソフトウェア Image J (National Institute of Health 製) により数値化し、その平均値 (*1) を比較した。

*1 イムノクロマトテストそのものの個体差を考慮し、3 回実施した数値の平均値を算出した。

② ELISA 法 (サンドウィッチ ELISA)

使用製品：#10205 ITEA ダニアレルゲン (Der f 1) ELISA キット (抗体固相化済)

評価方法：1 時間静置後の検体と対照のアレルゲン量を比較した。

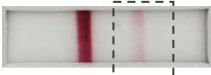
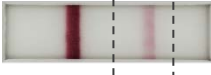




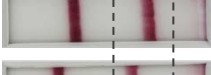


■ #10205 ITEA ダニアレルゲン
(Der f 1) ELISA キット (抗体固相化済)
→製品のより詳しい情報はこちらから
<http://www.itea.jp/product/elisa/>



5. 結果

ITEA ダニアレルゲン (Der 1) イムノクロマトテストにおいても、アレルゲン (Der f 1) 量の低減を確認することができた (表 1)。

表 1. イムノクロマトと ELISA の測定結果

試験区分	イムノクロマト			ELISA
	判定部位	Image J 数値	平均値	Der f 1 量 (ng)
アレルゲン不活化剤 加工不織布		7248.1	11176.8	29.79
		15845.3		
		10437.1		
アレルゲン不活化剤 未加工不織布		41619.6	42630.8	167.71
		44009.8		
		42263.1		
自然減衰 ^{*3}		45972.3	43354.5	185.45
		45254.6		
		38836.5		

テストライン (T2) ^{*5} →

*3 自然減衰 (*4) は、対照 (未加工不織布) における 1 時間静置後のアレルゲン量の減衰の有無を確認するための比較対象として実施。

*4 簡易評価キットの (C) ダニ (Der f 1) 抽出物を (A) 抽出物溶解液で溶解したものを自然減衰とした。
不織布を入れないこと以外は、検体および対照と同様に処理した。

*5 テストライン (T2) とは、検体のダニ溶液中の抗原の有無を示す指標。抗原濃度が高いほどラインの色が濃くなる。

6. 試験実施機関

ITEA 株式会社 東京環境アレルギー研究所

■ お問い合わせ

ITEA 株式会社 事業部門 試薬課

mail : reag-info@itea.jp TEL : 03-3526-2031

発行日 : 2018 年 5 月 14 日